

2019年3月期第2四半期決算に関する主なご質問

- Q: 建築用ガラスの減益理由について、欧州の定期修繕や北米の素板製造コストなどの特殊要因について説明を。
- A: 第1四半期のドイツでの定期修繕の影響が約7億円ありましたが、燃料費上昇の影響の大きな部分や為替影響のほとんどが建築用ガラスで発生していることが減益の主要な要因です。米国では顧客ニーズに合わせたVA製品を開発しておりますが、その中で対応に費用を要したものもありました。ただし、足元の事業環境に大きな懸念はないと見えています。
- Q: 自動車用ガラス事業では、欧州自動車メーカーに課せられた燃費規制（WLTP）の影響は生じているか？
- A: 規制適用開始は今年の9月からであり、それ以前は欧州の自動車販売は好調でした。しかし、自動車メーカーも規制対応について課題があると警告しているように、今後2、3ヶ月は自動車メーカーによっては販売台数に変動が起こり、納期調整などの対応が発生すると考えています。しかし、もう少し長期で見れば当社の販売への影響はあまりないと見えています。
- Q: 前期の高機能ガラス事業の営業利益には有形固定資産売却益も含まれていたが、その特殊要因を除くと大幅な改善。これを高機能ガラス事業の現在の実力値と見ていいのか？
- A: 高機能ガラス事業ではVA製品の増加や事業収益の改善が着実に進んでいます。ただ今期にも、新設したビジネス・イノベーション・センターへ、高機能ガラスのR&D費用の一部を振り替えたという特殊要因があります。（「その他」部門（本社費用など）へ振替）。前期と今期の特殊要因を除いた部分は、ほぼ正味の実力値と見えています。
- Q: 第2四半期までの進捗は順調だが、通期予想に対する営業利益の進捗率としては少し弱い。足元の原燃材料コスト上昇などを鑑みると、通期予想の達成に向けて下期に施策はあるか？
- A: 燃料についてはヘッジをしていますが、燃料価格は上期の後半から高止まりしており、下期も同等の高いレベルが続くと想定しています。しかし、事業面では欧州自動車用ガラス事業など上期に好調な事業は、下期においても基調は変わらないと考えており、また課題となる地域については収益改善に取り組んでいますので、燃料費の上昇をカバーし、通期予想は達成できるものと考えています。
- Q: 運転資本について、上期は棚卸資産が増えているが、何か特殊要因があるのか？
- A: 米国・オタワとイタリア・ベニスのフロート窯再稼働による製品出荷増が主な要因です。しかし、在庫削減のプロジェクトを進めており、通期ではこの影響を抑制していきたいと考えています。

Q: 今期から成長投資を開始することで設備投資額が大幅に増えそうだが、減価償却費の範囲内におさまるのか？
また、100 億円以上のフリー・キャッシュ・フロー達成は可能なのか？

A: 戦略投資を除いたベースでは、今期も 100 億円以上のフリー・キャッシュ・フローの創出を目指しています。戦略投資の主要な部分は来期になると考えており、減価償却費の範囲内にはおさまらない可能性があります。そのため選別的な資産売却等も視野に入れており、検討に着手しています。

Q: A 種種類株式の償還について資金源は？また、今後の償還の方針は？

A: 基本は、フリー・キャッシュ・フローが資金源です。A 種種類株式発行の目的は財務の安定化にあり、今後の償還においては、期間損益から優先配当と普通配当を考慮し、その上で自己資本にマイナス影響を与えないように進めていきたいと考えています。

Q: 資本安定化の基準とする自己資本比率は 20%か？

A: 自己資本の安定化について、20%はひとつの目処であり、中期経営計画で掲げている目標値ではありませんが、重要と考えているレベルです。

以上

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び製品需給の変動、為替相場の変動等があります。